

令和2年度 大館市立長木小学校 学校評価書

令和3年2月5日

I 学校教育目標

ふるさとに立ち 心豊かで たくましく 生き生きと学び合う 子どもの育成
～樹海の里にキラッと輝き合え 長木っ子！～

II 本年度の経営の基本方針

- (1) チーム長木として、明確なめあてをもち、職員個々の力を生かしながら学校運営に当たる。
- (2) 他のよさを認め、自分のよさを発揮しながらたくましく協働できる子どもの育成に努める。
- (3) 児童の実態に合わせた5つの輝き力向上に継続的に取り組む。
- (4) 適切な情報発信を心掛け、保護者・地域に信頼される学校を目指す。



長木・雪沢 笑顔いっぱいフェスティバル(11.15)

III 学校評価基準等

自己評価Aと 学校関係者評 価の評価基準	きわめて良好	自己評価Bの 評価基準	5	実現状況はきわめてよく意識も高い／数値目標100%
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標81～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標61～80%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取り組みが不安定／同40～60%
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／同39%以下

◆児童・保護者アンケート調査評価基準・集計状況

よくしている・よい	4	調査対象児童数3～6学年	104名
まあまあよい	3	調査対象保護者世帯数	109世帯
あまりよくない・少し不十分	2	保護者アンケート回収率	93.6%
まったくよくない・不十分	1		
わからない	0		

IV 項目別評価

I 社会性の育成

児童生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員コメント
基本的な生活習慣を身に付け、規律ある態度で、協力し合い、充実した学校生活を送ろうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	あいさつ運動を児童発案の自主参加で実施できているのが、素晴らしい。昨年に比べてあいさつの声が大きくなってきている。
	年度	良好	良好	問題行動に対しての素早い対応がよかった。下校時のあいさつも元気でとてもよい。
自己評価の概要と学校の改善策	【前期】1ヶ月の臨時休校明けの新学期スタート。コロナ感染予防を第一に考えながらの学校行事の実施など様々な制約の中で、子どもたちの社会性を十分育成するまでには至っていないことが、評価の数値に表れている。その中で児童・保護者アンケートの数値は昨年度前期に比べ高くなってきている。学校では安心して生活できるよう職員間の情報共有を大事にしながら取り組んできた成果だと考えられる。今後は、児童会活動を中心に子どもが課題意識をもって主体的に取り組める活動を設定していきたい。			
	【年度末】学校でのあいさつ力はかなり高まっているが、対象は限られている。今後は地域や家庭の力を借りながら、地域の中で一人でもあいさつができるように集団の力を個の力へと高めていきたい。生徒指導面では、生徒指導主事を中心に外部機関とも連携を取り、保護者とも面談を繰り返しながら対応してきた。保護者の理解と協力を得ることで、支援の必要な子どもたちが落ち着いてきたことを感じている。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
(1) 基本的な生活習慣	①正しい言葉遣いとあいさつと返事の習慣化	あいさつ運動 登下校時や校内でのあいさつの指導	3.6	3.7
	②生活の約束を守る姿勢・態度の定着	長木っ子の約束の徹底		
(2) 集団生活・集団行動	③よりよい学校づくりに参画する態度と実践力の育成	児童会活動(委員会 子ども集会) クラブ活動	3.5	3.7
	④学級活動における、互いのよさを生かし認め合う態度の育成	係活動 学級会 グループ活動 輝き合い集会 絆タイム		
(3) 組織的な生徒指導	⑤校内外の危険箇所の把握と安全環境の確保	交通安全教室 避難訓練 危険箇所点検 連絡・メール配信システムの整備 PTA・地域子ども見守り隊との連携 登校指導	3.6	4.0
	⑥問題行動等の早期発見、早期対応、指導体制の確立	長木っ子を語る会 個人面談 定期的な情報交換 生徒指導の研修会		

【各種データ】

◆教職員による評価

自己評価A	評価指標(自己評価B)	実践課題(自己評価B)	
3.8	(1)=3.7	①=3.8	②=3.5
	(2)=3.7	③=3.8	④=3.6
	(3)=4.0	⑤=3.7	⑥=4.3

・自信をもって、元気にあいさつできる子がたくさんいるようになった。マンネリ化しないように少しずつ取組を改善し、さらなるレベルアップ(地域や来客へ)を目指したい。

・問題行動等について専門機関と連携し情報共有できたことは、保護者及び職員の安心感にもつながった。

◆児童アンケート ※単位は%。端数処理等で100%にならない場合がある。 上段：R2前期 下段：R2年度末

調査項目		4	3	2	1	0
①	あなたは、友だちや先生方に対して「あいさつ」をしていますか。	63	34	2	0	2
		64	32	3	0	1
	あなたは、地域の方々に対して「あいさつ」をしていますか。	72	22	4	1	1
		61	34	5	0	1
②	あなたは、来客の方々に対して「あいさつ」をしていますか。	63	27	5	2	3
		64	27	7	0	2
③	あなたは、学校や家庭の約束を守っていますか。	46	39	7	3	5
		50	44	5	0	1
③	あなたは、児童会活動や学級の係活動、給食・そうじ当番などの仕事をきちんと行っていますか。	72	23	4	0	1
		67	28	4	0	1

④	先生方は、あなたをほめてくれたり、はげましたりしてくれていますか。	83 88	13 8	1 1	1 0	2 3
⑪	あなたは、学校が楽しいですか。	78 83	18 11	2 3	1 4	1 0
⑫	先生は、困ったとき、話を聞いたり相談にのったりしてくれますか。	83 88	15 10	0 1	0 0	2 1
⑬	あなたは、家で、学校のことをよく話しますか。	58 54	28 31	8 7	4 7	3 2

◆保護者アンケート ※単位は%。端数処理等で100にならない場合がある。

調査項目		4	3	2	1	0
①	子供達は、ご家庭や町内で元気なあいさつをしていますか。	35 31	47 51	15 17	1 1	1 0
②	子供達は、家庭や学校での約束を守ろうとしていますか。	39 29	51 57	9 14	1 0	0 0
③	子供達は、あいさつ運動や学級の係活動、給食や清掃など、自分の役割を果たそうとしていますか。	78 72	19 26	2 0	0 0	1 2
④	学校は、校内外における子供の安全確保について、情報収集と十分な安全対策をとっていますか。	66 57	30 36	2 4	2 1	0 2
⑤	学校は、いじめ等のない安心できる学校づくりに取り組んでいますか。	45 50	41 34	5 5	0 2	8 9



相手を意識してにっこり笑顔で元気にあいさつ



縦割りの班で6年生と一緒に



絆タイム 室内遊びをそれぞれ工夫して

II 健康と体力

児童生徒の状況	自己評価 A	学校関係者評価	学校関係者評価委員コメント
食や運動を通じて健康や体力に関心をもち、望ましい生活習慣を身に付けようとしている。	前期	おおむね良好	<p>ムゲイデイをこれからも定期的に行って欲しい。徒歩登校の呼びかけは、よい取組である。</p> <p>てくてくロードを歩く子どもが多くなっているように感じる。</p> <p>ネット利用による家庭での生活習慣の低下が様々な面に影響してきている。これからの課題である。インターネット利用の親子学習会はとてもよい取組である。</p>
	年度	おおむね良好	
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】マスクの着用、消毒等「自他の命を守る」コロナ感染予防への意識が高まり、それと同時に前期の病気による欠席者数は少なくなっている。運動会が記録会に変更となったが、5月のさわやかマラソンは予定通り実施し体力の向上を図った。また、生徒指導部と連携し「てくてくロード」での徒歩登校を呼びかけた結果、保護者の意識に変化が見られた。しかし、児童アンケート⑦の結果は低下しているため、体と心のたくましさ育成のためにも、今後も継続して呼びかけていきたい。</p>		
	<p>【年度末】保護者アンケート⑥「早寝 早起き 朝ごはん」の結果がかなり低下しているのが心配される。子どもたちの多忙化も要因として挙げられるが、平日におけるインターネット利用の時間増も、影響しているものとする。そこで2学期末PTAの教育後援会では、インターネット利用について親子学習会を行った。保健委員会が中心となり長木小独自のルールも設定したところである。健康な心と体づくりの大切さを継続して保護者にも訴えていきたい。</p>		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
(4) 保健体育 ・食育の指導の状況	⑦基本的な生活習慣	すこやか健康通帳 保健室廊下掲示 生活習慣とメディアに関する実態調査 保健指導の充実 栄養士による食育指導 ノーメディアコントロールデー 保護者への啓発	3.3	3.8
(5) 体力つくり	⑧さわやかマラソン・業間運動 への積極的な取組	さわやかマラソン なわとび運動 外遊びの奨励 マラソン記録会の実施	3.4	3.4
	⑨新体力テスト結果の向上	結果分析・活用 体育授業での補強・ 準備運動		

【各種データ】

◆教職員による評価

自己評価A	自己評価B(評価指標)	実践課題
3.6	(4)=3.8	⑦=3.8
	(5)=3.4	⑧=3.4

- ・さわやかマラソンを中休みにしたことで、朝より参加率がよくなった。
- ・保健室の廊下掲示が充実していて、子どもたちにとって健康を意識するきっかけになっている。

◆児童アンケート

	調査項目	4	3	2	1	0
⑥	あなたは、早ね 早起き 朝ごはん、歯みがきをしっかり行っていますか。	59 61	29 28	5 9	4 1	3 2
⑦	あなたは、「さわやかマラソン」や「てくてく歩こう運動」を進んで行っていますか。	50 54	42 37	4 7	2 3	2 0

◆保護者アンケート

	調査項目	4	3	2	1	0
⑥	子供達は、「はやね はやおき 朝ごはん」の習慣が身に付いていると思いますか。	37 24	41 49	19 23	3 3	0 2
⑦	歯みがき指導やノーメディアデー等、子供達の生活習慣を改善するための学校の取り組みは効果があると思いますか。	31 30	47 45	18 19	1 1	4 5
⑧	てくてく歩こう運動、さわやかマラソン、マラソン記録会等を通し、学校は進んで運動し体を鍛えようとする子どもを育てていますか。	66 55	30 41	3 1	1 2	0 1



鍋っこ文化事業:縦割り班できりたんぼ鍋作り 地場産の食育



12月PTA親子学習会:メディアとの上手な付き合い方



子どもたちに大人気の保健室廊下掲示

Ⅲ 基礎学力

児童生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員コメント
意欲的に授業に取り組み、基本的な学習習慣を身に付けながら、学力を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	授業で先生の話聞く姿勢がよい。指導が児童の姿となって育ってきている。児童の力を高めるためにも、読書の時間を取って欲しい。
	年度	おおむね良好	相変わらず読書が少ないのが気になる。家庭学習は多くなっているが、学習時間が少ないのも気になる。 基礎的指導技術がしっかりしていて、子どもたちの学習への構え、集中力を感じた。低学年のうちに学習習慣等しっかりと子どもを育てている。

自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】若年教諭の割合が高くなり、職員間で基本的な学習の約束等の確認をしっかりと行うと共に、学団主任を中心に連携を密にしながら子どもたちの指導にあたってきた。また授業参観の実施やTTを組むことで授業改善も進めている。朝読書の時間がなくなったため授業と組み合わせながら読書活動を行っているが、時間をまとめて設定することは難しい。週末読書を継続しながら、学年毎によむよむリストを作成したり、学級文庫の定期的な入れ替えを行ったりすることで本に接する機会を多くしていきたい。</p>
	<p>【年度末】学校・家庭・子ども3者共に家庭学習の評価が高まってきている。子どもたちのノートを見ても、自学の質が高まってきていることを感じる。児童アンケートを見ると、友達と話し合いながら学習を進める楽しさは感じているものの、進んで手を挙げるという項目は低くなっている。つまり、積極的な子どもが授業を進めている感は否めない。個の力を生かしながら、みんなで創る授業を目指して授業改善を一層進めていく。</p>

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
(6) 学習への取組	⑩基本的学習習慣の定着	学習の約束(チャイム席/準備)話し相手を意識した聞き方・話し方 家庭学習	3.2	3.4
	⑪学習内容の基礎・基本の確かな定着	ぐんぐんタイム 週末課題 長木検定 ドリル検定		
	⑫言語活動の充実	共感的学び合い かがやきタイム 振り返りの充実 会話力UP 探究学授業		
	⑬読書活動の推進	朝読書 読書運動		
(7) 諸学習調査の状況	⑭学習状況調査等の分析と改善	NRT・学習状況調査・CRTの分析と活用・補充指導		3.3

【各種データ】

◆教職員による評価

自己評価A	自己評価B(評価指標)	実践課題
3.4	(6)=3.4	⑩=3.3 ⑪=3.5 ⑫=3.5 ⑬=3.2
	(7)=3.3	⑭=3.3

・読む読むリストを設置したことで、手に取って本を読む子どもが増えた。おすすめの本を紹介し合う子が増えた。

◆児童アンケート

	調査項目	4	3	2	1	0
⑧	あなたは、家庭学習を毎日忘れずにやっていますか。	63 79	29 13	5 8	1 0	2 0
⑨	先生は、わかりやすく教えてくださいか。	87 85	11 13	2 2	0 0	1 0
⑯	授業で、進んで手を上げて発表していますか。	38 38	40 39	16 17	2 6	4 0
⑰	友達と一緒に話し合ったり考えたりする学習は楽しいですか。	64 79	31 17	3 3	1 1	1 0
⑩	あなたは、音読や読書を進んで行っていますか。	53 42	30 41	10 11	2 5	6 1

◆保護者アンケート

	調査項目	4	3	2	1	0
⑨	子供達は、家庭学習の習慣が身に付いていると思いますか。	45 46	40 50	14 3	0 0	0 1
⑩	ぐんぐんタイムや週末課題、長木検定等を通し、学校は子供達の基礎学力の定着に力を入れていると思いますか。	59 55	38 41	3 0	0 1	0 3
⑪	学校は、「わかりやすい授業」を提供していますか。	46 50	43 39	1 4	0 0	9 3
⑫	子供達に、家庭で読書をする習慣が身に付いていると思いますか。	16 22	40 37	28 24	15 17	0 1



授業改善:一人一授業提示研究会



3年生外国語活動:楽しく外国語に慣れ親しむ



教室の後方に関連読書コーナー

IV ふるさとキャリア教育

児童生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者 評価委員コメント
ふるさとへの誇りと愛着心を持ち、ふるさとに生きようとする自立した気概をもとうとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	今年度は、いろいろな活動が制限され評価は厳しくなっているが、よくがんばっている。太鼓披露が、もっとできることを願っている。 笑顔いっぱいフェスティバルは、子どもたちからとても元気をもらった。新しいことを工夫しながらやると、いろいろなことが身につく。先生方が与えるのではなく、自分たちで考えながら実施したことが素晴らしい。子どももよい経験になった。
	年度	良好	良好	
自己評価の概要と学校の改善策	【前期】	「ひと・もの・こと」という視点で、地域の輝く命から学び、地域の一員として一杯輝く長木っ子の育成を目指し進めてきた。コロナ禍の中で地域行事がほぼ中止となり活動に制限も多いが、それが子どもたちの課題意識へと結びつき展開を見せている。エゾタンポポの保護活動への意識化が大きな課題となっている。		
	【年度末】	この項目も、学校・家庭・子ども3者共に評価が高くなった。地域からたくさんの応援を受けながら「命輝け！エゾタンポポJ」を通して、子どもたちが地域のよさを知り、自信をもてたことが大きな成果である。大館市の教職員実践発表会でも、2年生の生活科の取組を発表することができた。現在、子どもたちが見つけた地域の輝き・自分たちの輝きをQRコードを用いてマップにまとめている。今後、地域の紹介と共に子どもたちの活動を広げていきたい。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B	
			前期	年度
(8) エゾタンポポプロジェクト	⑮地域のエゾタンポポを守る活動	エゾタンポポの植栽活動・保護活動	3.4	3.8
	⑯共生の意識を高めようとする取組	命の学習 エゾタンポポの広報活動 山田町訪問 笑顔いっぱいフェスティバル QRマップ製作		
(9) 伝統芸能の取り組み	⑰鳳凰太鼓、鹿島太鼓の伝承	太鼓クラブによる伝達 伝承クラブによる伝達と鹿島流しへの参加	3.8	4.0
(10) キャリア教育に重点を置いた取組	⑱協働力実践へのアプローチ	宿泊体験学習 地域行事への参加 町探検・職場体験 施設訪問 全校ふるさと学習	3.7	3.8

【各種データ】

◆教職員による評価

自己評価A	評価指標(自己評価B)	実践課題(自己評価B)	
3.9	(8)=3.8	⑮=3.5	⑯=4.1
	(9)=4.0	⑰=4.0	
	(10)=3.8	⑱=3.8	

- ・コロナウィルスが流行している中で、別の形で山田町訪問や笑顔いっぱいフェスティバル等、地域との交流を深める取組ができていた。
- ・太鼓クラブは児童の縦のつながりがよく表れた活動になっていると感じる。



笑顔いっぱいフェスティバル
ポスターを持ち宣伝の
お願いに回る六年生

◆児童アンケート

調査項目		4	3	2	1	0
⑤	あなたは、エゾタンポポプロジェクトや交流活動に進んで参加していますか。	30	39	20	3	8
		60	25	6	3	7

◆保護者アンケート

調査項目		4	3	2	1	0
⑬	学校は、エゾタンポポプロジェクトや鳳凰太鼓、鹿島太鼓・鹿島流し等を通してふるさとを愛し、誇る心を育てていると思いますか。	70	28	0	0	2
		72	24	0	0	5
⑭	学校は、ふるさとキャリア教育を通して、互いの良さを認め合い、協力して取り組もうとする気持ちが育っていると思いますか。	55	41	1	0	3
		60	32	1	0	7

V 保護者・地域との連携

学校の 況	前期	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員コメント
学校の取組がわかりやすく保護者・地域へ伝えられ、地域の教育力を有効に活用している。	良好	良好	良好	変わらず良好な関係を維持している。いろいろな行事や活動を変化・進化させて欲しい。 アンケート回収率が高く、子どもや学校にとっても興味をもってきているのが、よいと思う。
自己評価の概要と学校の改善策	<p>【前期】通学路の安全確保のためPTA生活部が中心になって実施していたグリーンベルト塗装には、過去最高の40名以上の参加があり、親子での参加も多かった。夏のエゾポッコくらぶも、長木小だけで希望をとったが70名以上の参加者があり、盛会裏に終えることができた。例年通り開催できない行事もあるため、保護者が納得して協力いただけるよう文書やメール等での説明を確実にしていきたい。地域の方を指導を依頼して、マスク作りやタグラクビーの授業も行ってきた。後期は「命輝け！エゾタンポポPJ」として地域人材の活用を図りたい。</p> <p>【年度末】学年末の学校評価保護者アンケートは、回収率93.6%となり、保護者の関心の高さが伺われる。授業参観などは、感染予防対策をしっかり行い可能な限り実施してきた。また修学旅行や自然教室では、写真付きメールを利用して子どもたちの様子を発信してきた。学校の取組については学校報やブログ・ホームページなどを通じて伝えてきたが、一層の理解を図れるよう長木小輝きメールの発信を継続していきたい。</p>			

評価指標	実践課題	主な取組	自己	評価B
			前期	年度
(11) 地域・家庭との連携	⑲家庭・地域への情報発信・受信、相互理解 ⑳家庭・地域の意見を学校運営に生かすための取組	学校報の地区配付「みんなの登校日」の設定 エゾポッコくらぶ ブログ発信 メールによる日常活動の情報提供 学校評価保護者アンケートの実施と活用	3.7	3.8
(12) 地域の教育力の活用	㉑地域素材や人材の活用	学校支援地域本部事業の活用 正課クラブ指導者との連携	3.9	3.8

【各種データ】

◆教職員による評価

自己評価A	自己評価B(評価指標)	実践課題	
3.8	(11)=3.8 (12)=3.8	⑲=3.8	⑳=3.7
		㉑=3.8	

- ・クラブ、タグラクビー・・・外部の人の教育力を活用できていて、子どもにとって本物に触れるよい機会となっている。
- ・エゾポッコくらぶは親と子、親と親、様々な形で絆が深まる時間となっている。



タグラクビー
体育の授業で地域の
先生から指導を受ける

◆児童アンケート

調査項目		4	3	2	1	0
⑬	あなたは、家で、学校のことをよく話しますか。	58	28	8	4	3
		54	31	7	7	2
⑭	あなたは、正課クラブの活動が楽しいですか。(4年生以上)	93	7	0	0	0
		90	10	1	0	1

◆保護者アンケート

調査項目		4	3	2	1	0
⑮	学校だより・学年だより・保健だよりや日常の情報交換などを通じて、学校・子供達の様子をわかりやすく伝えていきますか。	55	41	1	0	3
		61	36	1	2	0
⑯	学校は、PTA活動・教育後援会事業・スポ少等、保護者や地域との連携を大切にしていますか。	56	38	4	0	2
		52	36	3	3	4
⑰	学校は、保護者の意見などを学校運営に生かしていると思いますか。	43	43	5	3	5
		42	42	4	4	8
⑱	学校は、地域の特徴や地域の人材をよく活用していると思いますか。	52	40	1	0	7
		51	38	2	2	7

V 学校評価（後期）学校関係者評価委員会による評価

令和3年2月5日

(1) 項目別評価

評価項目	評価	コメント
I 社会性の育成	良好	問題行動に対しての素早い対応がよかった。下校時のあいさつも元気でとてもよい。
II 健康と体力	おおむね良好	てくてくロードを歩く子どもが多くなっているように感じる。 ネット利用による家庭での生活習慣の低下が様々な面に影響してきている。これからの課題である。インターネット利用の親子学習会はとてもよい取組である。
III 基礎学力	おおむね良好	相変わらず読書が少ないのが気になる。家庭学習は多くなっているが、学習時間が少ないのも気になる。 基礎的指導技術がしっかりしていて、子どもたちの学習への構え、集中力を感じた。低学年のうちに学習習慣等しっかりと子どもを育てている。
IV ふるさとキャリア教育	良好	笑顔いっぱいフェスティバルは、子どもたちからとても元気をもらった。新しいことを工夫しながらやると、いろいろなことが身につく。先生方が与えるのではなく、自分たちで考えながら実施したことが素晴らしい。子どももよい経験になった。
V 保護者・地域との連携	良好	アンケート回収率が高く、子どもや学校にとっても興味をもってくれているのがよいと思う。

(2) 全体的なコメント

- ・ふるさとキャリア教育の中で大事にしたいことは、地域のよさを知ることである。長木小では、その土台となる部分にしっかりと取り組んでいる。子どもたちが、自分の住んでいる地域のよさを見つけて大人になるのでは全然違うと考える。
- ・保護者アンケートで「わからない」という評価が多いのが気になる。伝え方の工夫をしてみようか。
- ・コロナの中でできないから諦めるのではなく、どうやったらできるか、先生達はその思いを共有しながらがんばっている。先生達のまとまった雰囲気、保護者や子どもたちに伝わっている。
- ・読書力アップについては、学校側が努力しているのが分かる。メディア利用が多くなってきたこの時代、それでも読む力を大切に育てたい。きっと将来の役に立つと思っている。